

学校卒業後における障害者の学びの推進方策についての意見集約

全国特別支援教育推進連盟

1. 障害者が学び続けることのできる社会を創造する必要性について

○障害のあるなしに関わらず、学校卒業後に、地域の中で、人や社会と関わりながら、様々な経験や楽しみを通して生きがいのある生活を追求し、いろいろなことを学ぶことで人は成長していきます。障害のある人が、特別支援学校卒業後も学び続けられることは、生きがいのある生活を送るため、自立と社会参加の観点からも、重要なことであり、こうした生涯学習の機会を整備することは、極めて重要であり、歓迎されることです。

○特別支援教育を受けている児童生徒は、特別支援学校だけではなく、他の学校を卒業する児童生徒もいます。こうした児童生徒への支援の検討が必要です。

2. 今後目指すべき方向性について

○ライフステージなかで、状態に応じて生じる課題に対応した学びが設定され、障害のある人が学びの場を選択できるような環境整備がなされることを望みます。

○障害のある人が学び続けるために、「福祉等の分野の取組と学びの連携の強化」は大切な方向であると考えます。参加する当事者が、必要に応じて様々な福祉サービスを利用できるようになると、学びの活動への参加が容易になると考えます。

○障害のある人の状況は非常に幅広く、また、各障害種によっても、必要な支援は異なります。障害のある人と、ひとくくりにするのではなく、その人に必要な支援等を鑑み、例えば ICT の活用などの情報提供や情報保障の手段の充実、医療的ケアの提供などの環境整備が必要であると考えます。

○学び続けるためには、学びの選択肢が多いことが大切だと考えます。そうした選択肢を自ら選びやすいように提供することで、一人一人の興味・関心を広げることにつながると考えます。

○特別支援学校を卒業した人が学び続けるために、特別支援学校の施設を活用することは、この事業を推進するためには大切だと考えます。しかし、それを実施するために教職員等の力のみを期待することは、大きな課題です。教職員以外の人的保証が是非とも必要です。

○自らの障害や病気に関わることを学ぶ必要がある人もいます。そうした学びも視野に入れる必要があります。

3. 学校卒業後における障害者の学びの充実方策について

○「生涯学習センターにおける講座等の設置」「大学のオープンカレッジ」「大学の公開講座」「地域公民館やNPO 法人等の講座」は、社会と繋がりながら学び続ける有効な方法であると考えますので、充実してほしいと思います。ただし、障害のある方にとって、情報の少なさ等のバリアが参加を妨げることにもつながりますので、環境整備も必要だと思います。

○障害のある人が障害のない人と一緒に学び続けられるように、電子データや点字の教材、手話通訳者、パソコン要約筆記等の支援方策の提供とともに、一人一人の体調やコンディションにフレキシブルに対応できるような学びの場の全国的な拡充が必要です。

○例えば、東京都の特別支援学校で実施されている公開講座『障害者の本人講座』は非常に需要は高く、取組自体の拡大が望まれますが、教職員の支援も必要になります。教員の働き方改革等も踏まえ、教職員に頼らない他の人的支援をお願いしたいです。

○やむを得ず在宅で学び続ける必要のある人もいるため、そうした在宅での学びの支援のための環境整備を必要であると考えます。

4. 一般的な学習活動への障害者の参加の推進方策について

○まず、本人がどのように学びたいかをよく聞き取ることから始まるような制度設計が大切だと思います。

○大学生や中学生、高校生が、学びの場にも支援員等のボランティアとして参加することで将来を担う世代の障害理解と心のバリアフリーにつながることを期待します。

○障害のある人が学び続けられるように、学習機会を提供する団体等は、各障害についての理解を深めることが必要だと考えます。

○障害のある人の学びを支援する社会福祉法人やNPO法人等の設置や運営に対する財源的措置も含めた支援が是非とも必要だと思います。

○一般的な学習活動への参加は、障害のある人から見ると残念ながら未だバリアをあると考えます。学び続けるために、学習活動の関わるハード面・ソフト面のバリアフリー化が必要です。

5. 取組を推進するためのシステムづくり、基盤の整備について

○障害のある人が学び続けられるように幅広い専門家等の参画や、学びを支援する人材の育成によって、学びの場の推進を図ることが大切だと考えます。

○障害のある人は、一人一人がその状況等が違います。中途障害の方や重複障害の方もおり、幅広い対応についての検討が必要だと思います。

○障害のある人が学びを続けるにあたり、保護者の方の支援がなくてもできるようにすることが大切だと思います。一人で、または、家族以外の方の支援を受けながら学び続けることが本人にとって重要だと思います。

○個別の教育支援計画が、学齢期だけではなく卒業後も活用することで、一人一人の学齢期や卒業後の学習支援を一貫することができると考えます。